

第6学年道徳学習指導案

日 時 平成21年10月9日(金) 5校時

児 童 6年 男子6名 女子10名 計16名

指導者 水野 順子

- 1 主題名 生きがいを求めて 【1-(2) 希望, 勇気, 不撓不屈】
- 2 資料名 なぜ子供は学校に行かねばならないのか (出典 みんなのどうとく 6年 学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章、道徳の第5学年及び第6学年の内容の1「主として自分自身に関すること。」の(2)に、「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」とある。

人として輝いた生活を送るためには、理想を見だし、その実現に向けて自己を勇気づけ、目標を持って一步一步前進していくことが大切である。しかし、自分を生かせるものが見つからなかったり、現実の壁にぶつかって挫折したりし、夢を持って生きていくことの意味を見失ってしまうことも多い。そこで、本資料を通して、夢や希望を持つことの大切さに気づき、自分自身のよさを周囲との関わりの中で磨いていこうとする態度を育てたい。

(2) 児童について

本学級は、明るく元気な児童が多く、行事や学習、普段の生活において、まじめに取り組んでいる。最高学年として、下学年の児童を引っ張って行こうという意識もあり、運動会や修学旅行などの行事では、しっかり目標を決め、みんなで一丸となって向かっていく姿が見られた。放課後も陸上練習やスポーツ少年団の活動を頑張っている児童がほとんどである。しかしながら、新しいことや困難なことにぶつかると「できない」「無理だ」「～があるから」などの理由をつけてあきらめてしまう児童もいる。

授業中の発表は、ほとんどの児童が、自分が考えたことや思ったことを自分の言葉で発表しようとしているが、友達の意見に関わって発表することについては、自分と同じだったり、似ていたりする意見に同調するに留まっている。友達の意見についてどう思うかというような交流は少しずつ行っているところである。

(3) 資料について

本資料は、ノーベル文学賞作家大江健三郎が、長男光の成長と学校の存在意義について述べている。特殊学級で周囲の環境になじめなかった光を見て、父親である「私」は、学校の必要性に疑問をもつ。しかし、友達との関わりの中で心を開いたことをきっかけに、自分の音楽的な才能を磨き、卒業後に作曲家として自立した光の成長の過程を通して、子どもが学校に行くことの意味を理解するという内容である。児童にとって学校は行くのがあたりまえだが、自分にとっての学校の意味を考えさせたい。

(4) 他の教育活動との関連

陸上記録会や学習発表会・音楽会において自分の達成したい目標を設定し、その実現に向けてできることを学校生活や日常生活の中に位置づけていく。ふだんから意識を高めて取り組めるように声かけする。日常生活においても「がんばりカード」を活用し、いつでも自分の目標を意識させながらどのように行動していけばよいか児童が考えるきっかけとしたい。また、社会科の調べ学習・国語学習の発展として伝記や偉人伝などの読書活動を推進する中で、夢や希望の実現の過程を学ばせたい。

4 本時の指導

(1) 目標

夢や希望を見だし、人との関わりの中で自分を生かしていくことの大切さについて自覚を深める。

(2) 本時の指導の構想について

導入段階では、学校に関するアンケートをもとに「学校に行きたくないと思ったこと」「なぜ学校に行くのか」について本音を自由に出し合い、資料へとつなげていく。

展開段階では、まず作者や登場人物について功績や生い立ちについて理解させた上で資料提示をおこない、児童に資料の内容を正しくとらえさせる。学校へ通うようになってからの光の様子や変化・成長をを確認しながら、「私」の抱いた「学校へ行かなければならないのか」という疑問や、学校に対する考え方の変化に共感させたい。このとき、おうちの人からのアンケートを活用して、自分たちの成長についても考えながら、「私」の思いをワークシートに書き、話し合うことで、自分のよさを生かすことやまわりとつながっていくことの大切さを感じ取らせたい。

終末段階では、学校に行くことの意味や大切さについて自分なりに考えたことをグループや全体で交流することで、本時の価値をさらに深く心に受け入れさせたい。

(3) 展開

段階	学習活動と主な発問（主発問◎）	予想される反応	評価(□), 留意・支援(☆)
導入 10分	1 アンケートをもとに学校について話し合う。 ○学校に行きたくないと思うときはどんなときですか。 ○なぜ毎日学校に通っているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とけんかしたとき。 ・先生にしかられたとき。 ・好きな勉強がないとき。 ・テストがあるとき。 ・できないことがあるとき。 ・宿題が終わってないとき。 ・学校に行かないとしかられる。 ・新しい勉強を覚えるため。 ・友達と楽しく過ごすため。 ・いろいろなことができるようになるため。 ・まわりのことを考えることができるように。 	☆学校に行きたくないと思うことは多かれ少なかれ誰にでもあることを強調し、自分の本音を自由に話せるようにする。 ☆事前に書かせておいたアンケートをもとに考えを出し合わせる。 ☆学校に通っていて楽しいことや、よかったと思うことなども想起させ、課題に対する各自の考えもたせながら資料への意欲を喚起する。 【生活を見つめての意見交流】 □学校についての話し合いから、資料への興味がわいたか。
展開	2 資料「なぜ子供は学校へ行かねばならないのか」を読み、話し合う。 ※大江健三郎・大江光について知る。		☆資料提示の前に大江健三郎・光について説明する。


<p>28分</p>	<p>○教室でいつも耳を両手でふさぎ、体を固くしている光を見ていた「私」はどんなことを思っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光のようすは？ ・光の気持ちは？ <p>◎学校で友達と関わり始めた光を見て「私」はどんなことを思っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の変化は？ (友達を見つける 友達の手助けをする 音楽の話をするなど) ・自分たちの変化は？ (できるようになったこと・よかったなと思うことなど) <p>○光さんが作曲家になることができたのはなぜでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・光がかawaiiそう。 ・学校へ行かせない方がいいのかな。 ・そこまでして学校に行かせないといかないのだろうか。 ・学校に行かず、家族だけで過ごしていた方がいいのでは。 ・光が友達を見つけてよかった。 ・光と同じように感じる友達がいたんだな。 ・友達の手助けをするようになったことがうれしい。 ・音楽への関心が高まったようだ。 ・家にいたら友達と関わることもなかっただろう。 ・学校に行かなくてもいいかなと思ったこともあったが、学校に行って本当によかった。 ・学校に行ったからこそ心を通わせる友達ができたんだな。 ・同じように音楽が好きな友達と出会い、音楽の才能を伸ばした。 ・家にとじこもらず学校に行っただのがよかったと思う。 ・音楽を自分の言葉としてまわりと関わることができたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆光の様子から光の気持ちにもふれ、「私」の光を不憚に思う気持ちをとらえさせる。 ☆いやな思いまでさせて学校に通わせなければならぬのかという疑問と葛藤する「私」の気持ちに共感させる。 ☆学校での光の変化、さらに音楽を通して友達とともに成長していった光の姿をおさえる。 ☆おうちの人からのアンケートを活用しながら、自分たちの成長についてもとらえさせたい。 ☆光の変化にともなって変わっていく「私」の思いを重ね合わせてとらえられるようにする。 ☆ワークシートに書かせ、じっくり考えさせる。 □光の変化にともなって変わっていく「私」の思いを考えることができたか。 ☆光にとって音楽が大切な言葉であることをとらえさせる。 ☆学校での友達との関わりがありさらに社会との関わりがひろがったことをとらえさせたい。
<p>終末 7分</p>	<p>3 これからの自分の生活について考える。</p> <p>◎「学校は・・・」に続く言葉を書いてみましょう。</p> <p>4 大江光の音楽を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・じぶんのいいところを見つける ・自分のよさをのばす ・まわりの人たちとの関わりが大切 ・心をつなぐ場所 ・自分の力をのばすところ ・目標をもってがんばるところ 	<ul style="list-style-type: none"> ☆学校に行くことの意味について考えることを自分の言葉でワークシートにまとめさせる。 ☆グループ毎に意見交流をしたあと、友達の言葉で印象に残った言葉を発表させる。 □自分の考えを持って進んで友達との意見交流をしようとするのができたか。【交流の場の設定】 ☆大江光の音楽を聞きながら余韻をもってしめくくる。

(4) 評価

- ・夢や希望を見だし、人との関わりの中で自分を生かしていくことの大切さについて自覚を深めることができたか。

5 板書計画

学校は



作曲家として活躍

学校

なぜ子供は学校に行かねばならないのか

学校と子どもたちの写真

学校についてのアンケート (まとめて)

大江光

大江健三郎

作曲家


ノーベル文学賞

言葉で気持ちを伝えにくい

学校へ行かなければならないのか

大江家

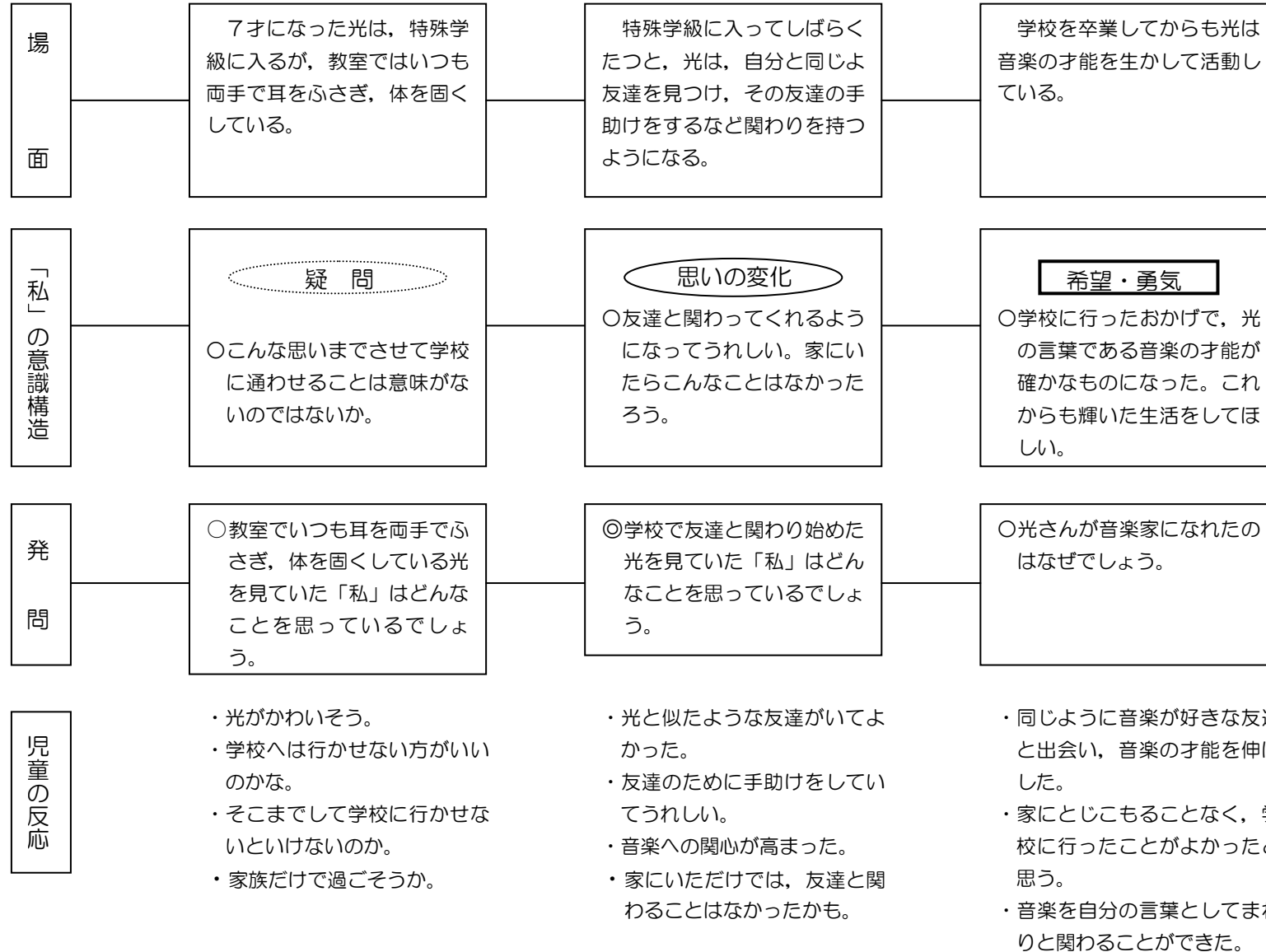
光が友達を見つけてよかった。
友達の手助けをするようになってうれしい。
家にいたら友達と関わることもなかったな。
自分の好きな音楽への関心がさらに高まった。



6 資料分析

資料名 なぜ子供は学校へ行かねばならないのか (出典 学研「みんなのどうとく6年」)

ねらい 夢や希望を見だし、人との関わりの中で自分を生かしていくことの大切さについて自覚を深める。



なぜ子供は学校に行かねばならないのか

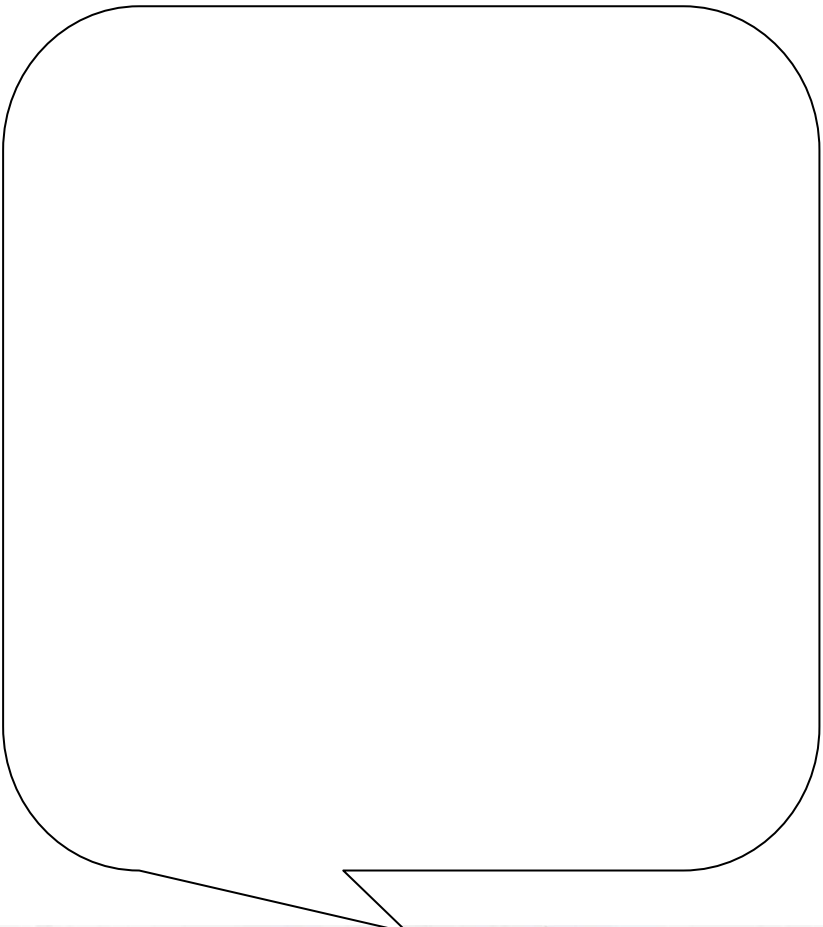
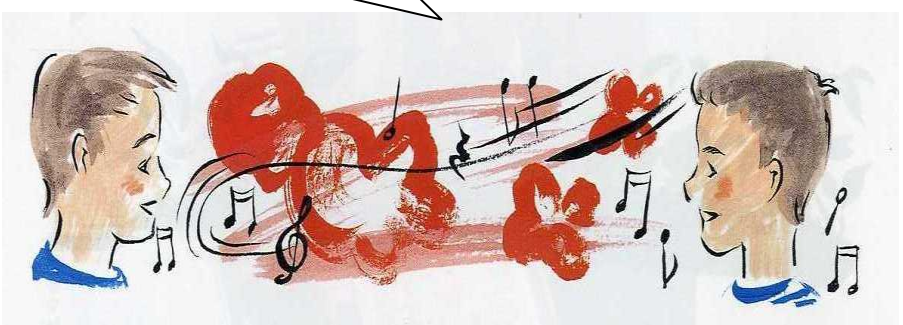
六年

組

番

なまえ

学校で友達と関わり始めた光を見ていた「私」は、どんな
ことを思っているでしょう。



学校は

ふりかえってみよう ◎ ○ △

気づいたことを話すことができたか。

友だちの意見を認め、考えを深めながら聞くことができたか。